

校長通信

Morifun

今年度もあっという間にゴールデンウィークも終わり、朝晩の寒暖差も少しずつ緩んで過ごしやすい季節になってきました。引き続きコロナ対策をしながら健康に留意した生活を送りましょう。今週末からは、いよいよ高校総体も始まります。是非ベストの状態で大大会に臨めるようにしてください。皆さんの活躍については、次号で詳しく紹介しますので、頑張ってください！

さて、今年度2号目の通信ですが、もしかしてローマ字のサブタイトルが気になっている人がいるかもしれません。本校は短縮して「盛大附」とか「盛附」と呼ばれることが多いです。ではなぜ“Morifu”ではなく、最後に“n”が付いているかというと、“fun”という単語には「おもしろみ、楽しみ」という意味があります。旅行や娯楽などに出かけの人に、“Have fun!”(楽しんで！)と声をかけます。本校の生活が楽しく有意義なものになるように願いを込めて付けた次第です。ということですので、今後もお見知りおき願います。

<5/10 生徒総会>

今年度の生徒総会は例年通りの形で体育館にて行われました。執行部をはじめ各委員会、各部の代表がそれぞれの活動について報告し、生徒たちからの質問や意見に応えました。スローガン、校則について、校舎内でのスマホの使用など、それぞれが学校生活のことを真剣に考えている姿が伝わってくる討議も見られました。校長挨拶でも述べ

ましたが、生徒諸君が主体となるのが生徒会活動です。自分たちでできることは積極的に進めてほしいと思います。そして、全校挙げて協力体制を築いてほしいと思います。今年度のスローガンである、『革命』～No limit～に意味を込めたように、それぞれが限界を決めずに自分自身の可能性を広げていってほしいですね。



<5/12 遠足>

コロナ対策で普段よりバスを増便して遠足を予定通り実施しました。1年生は「東日本大震災からの復興の現状と防災の重要性を学ぶ」をテーマに、宮古市田老での防災学習それから岩泉町龍泉洞を訪れました。2年生は「本の魅力や郷土の伝統に触れる」をテーマに、とおの物語の館・こども本の森・遠野ふるさと村を中心に見学しました。3年生は「環境・新エネルギー牧場を視察しSDGsの理解を深める」をテーマに、くずまき高原牧場へ、メインの高原牛カルビ焼肉とアイスクリーム作りは、かなり盛り上がったようです。修学旅行が中止になったので、クラスでの思い出作りになれば幸いです。天気にも恵まれ、各学年それぞれの目的を達成できたようです。

<5/13 部活動発表会>

令和4年度のPTA・教育後援会総会に先立ち、昨年に引き続き文化部による部活動発表会が体育館で行われました。音楽部、ダンス部、軽音楽部、吹奏楽部、さんさ部がそれぞれ日頃の練習の成果を披露してくれました。約80名の保護者が見守り中のパフォーマンスでした。新入生が加わり、どの部も活気が出てきたように感じられました。今回の盛附祭ではさらに磨きがかかったパフォーマンスを披露してくれると思います。乞うご期待です！

<4/26 全校礼拝より>

新約聖書 コリントの信徒への手紙 15章 3～5節

現在、教会のカレンダーでは復活節という時期、4月17日にはイースターを迎えました。イースターはイエス・キリストの復活を記念する日です。本日は、このイースターに合わせて、賛美歌を一曲紹介します。575番「球根の中には」という曲で、イースターの時期に歌われることが多い曲です。

改めて歌詞を見ると、「球根の中には 花が秘められ」とあります。ちょうど今チューリップがきれいに咲いていますが、球根というのは考えれば不思議で、その中には花が秘められているのですが、土に埋まっているときは、それが目に見えない。特に岩手は雪が多いですから、雪の下、土の下に、春になると花を咲かせる球根があるとは、なかなか思えない。続いて、「さなぎの中から いのちをばたく」、さなぎも外から見ると、この中から蝶が出てくるとは想像が付きません。私たちの目には見えないけど、じっとして動かないさなぎの中で命があり、時が来たら殻を破って美しい蝶が空に羽ばたいていきます。3行目、「寒い冬の中 春はめざめる」、冬が終わると春が来るのですが、ある時を境にぱっと冬から春になるのではなく、寒い冬のなかに、すでに春は目覚めている、と歌っています。

では、いつ球根は芽を出し花を咲かせるのか、さなぎはいつ蝶になるのか、その日その時を知っているのは神だと歌っているのです。私たちにははっきりとは分からないが、その時はきっと訪れる。まだ寒い冬の中にいるように思えるけれど、ちゃんと春は目覚める準備をしている。3番目を見てもらうと、「いのちの終わりは いのちの始め」とあります。不思議な言葉ですが、終わりの中に始まりがあるという意味だと思います。私たちの目には終わりと思えることの中に、次の始まりが隠されている。私たちが経験する最も大きな終わりは死を迎えることですが、それだけではなくて日々の生活の中で「もう終わってしまった」という経験もすると思います。そのように私たちの目には辛く真っ暗なように思える終わりの中にも、始まりが隠れているのだ、ということを伝えています。この歌は賛美歌なので、終わりと始まりは復活ということに結び合わせるのですが、それだけではなくて日々の生活でも終わりに思えるどこに

でも始まりはあるんだ。そういう勇気づけてくれる言葉なのです。

新年度、近くに遠くに、本当に大変な状況がありますが、時に終わりに思えるような時もあります。終わりの中にも始まりはあるし、冬の中で春は目覚める準備をしている、そのことを心に秘めて、一步一步、歩んでいきたいと思えます。(花巻教会牧師・鈴木道也先生)

<校長講話「マスローの法則」>

人間の欲求には「生理的欲求」「安全の欲求」「社会的欲求(所属と愛の欲求)」「承認欲求」「自己実現の欲求」の 5 段階があります。そして、これら 5 つの欲求にはピラミッド状の序列があり、低次の欲求が満たされるごとに、もう 1 つ上の欲求をもつようになると言われています。

ピラミッドの一番下の段にあたる、最も基本的な欲求が「生理的欲求」です。生理的欲求は、生命活動を維持するために不可欠な、必要最低限の欲求を指します。いわゆる「3 大欲求」(食欲・睡眠欲・性欲)のほか、呼吸をしたい、排せつをしたい、水を飲みたいなどの欲求も、生理的欲求に該当します。

私たちがより高い欲求に進むためには、まずはこの生理的欲求が満たされていることが大前提となります。たとえば、いくら勉強したい、あるいは部活動で思い切り練習したいと思っても、腹ペコの状態ではまともに集中できません。生理的欲求は、欲求のピラミッドにおける土台であり、いち生物としての人間がまず最初に抱く、欲求の出発点なのです。

生理的欲求が満たされたら、次に問題になるのは「安全の欲求」です。安全の欲求とは、身体的に安全で、かつ経済的にも安定した環境で暮らしたいという欲求を指します。たとえば、紛争地域など、いつ殺されてしまうかわからない環境に置かれたら、今すぐ逃げ出したいと思えますよね。また、経済的に不安定で明日の生活さえままならなかったり、病気でいつも体調が悪かったりしても、生活の快適さは損なわれてしまいます。

このように、いつ生活が脅かされるかわからない不安定な状態を脱し、少しでも秩序のある、安心できる環境で暮らしたいという欲求が、安全の欲求と呼ばれるもののなのです。そうですね、まさに今ウクライナの人たちはこの「安全の欲

求」が全然満たされない状況にあるわけです。そして世界中には、私たちが知らないだけで、不安定で不幸な境遇に置かれている人たちはたくさんいるのです。

安全の欲求の次には、「社会的欲求」がきます。社会的欲求とは、家族や組織など、何らかの社会集団に所属して安心感を得たいという欲求を指します。所属と愛の欲求と呼ばれることもあります。生理的欲求・安全の欲求が満たされていたとしても、話し相手がなく、自分を受け入れてくれる人もいないような孤独な生活では、とても寂しい思いをするはず。こうした「どこにも所属していない」という寂しさこそが、まさに社会的欲求が充足していない状態にあたります。私たちが健やかに日々を暮らしていくためには、物質的満足だけでなく、自分を受け入れてくれる親密な他者の存在が不可欠である、ということですね。今この学校で、あるいは学級で、所属する部活で、この欲求は満たされているでしょうか。

さて、この後には「承認欲求」そして「自己実現の欲求」というものがあります。少々話が長くなってきたので、簡単にいいますと、承認欲求は、単に集団に所属するだけでなく、所属する集団の中で高く評価されたい、自分の能力を認められたい、という欲求です。そして、以上 1~4 のすべての欲求が満たされると、最後に残るのが「自己実現の欲求」です。自己実現の欲求とは、自分にしかできないことを成し遂げたい、自分らしく生きていきたいという欲求を指します。今の皆さんにとっては将来の夢、将来のなりたい自分がここに存在することになります。

まずは、ウクライナや世界中で安全安心な生活ができていない人たちや地域に思いを馳せることを忘れず、今度は自分の身に当てはめてみて、いかに日々の健康な生活が大事な、そして日々の平和な暮らしが大切なもので、附属高校での生活が充実したものになっているか、そうでなければ、どこに問題や課題があるのか、考えてみてください。(4 月 26 日全校礼拝にて)

<教育実習生から>

5 月 9 日から教育実習が始まり、4 名の実習生が奮闘しています。今回は実習生の皆さんに「あなたが高校生に伝えたい教科科目の魅力とは」という題でメッセージを書いてもらいました。

堺谷杏里さん (盛岡大学文学部日本文学科 3 年)

「私が思う国語の魅力は、他者と意見を交流することで自分の考えを深めることができる点です。意見を交流することで相手に対して自己表現することにも繋がり、反対に相手を理解することもできます。コミュニケーションを取る第一歩でもあると思います。作品に対しても、作品を理解することで自分の表現の幅が広がります。自分の感性を知る学習でもあるので、生きる上での道しるべを見つけるような授業を目指したいです。」

上平詩織さん (盛岡大学文学部社会文化学科 3 年)

「皆さんにとって『当たり前』なことは何ですか？ 今、目の前に広がる『当たり前』は、実は全く『当たり前』ではありません。人々によって築き上げられたもの、勝ち取られたものだったり、地域や時代によって非常識なことだったりします。歴史を学ぶことは、『当たり前』に一つ一つ立ち止まり、感謝したり、疑問を持ったり、皆で良い方向へ変えていこうとする営みなんだと私は思っています。素敵な未来、一緒に考えていきましょう」

滝浦拓海さん (東北学院大学教養学部情報科学科 4 年)

「数学を学ぶ事で、問題を発見し解決する能力が身に付きます。数学の問題を解決する事と実社会で起こり得る問題を解決する事は関連しています。一例として、問題は部品をどのように扱っていくかで解決する事ができます。社会問題を解決する際に地域性や自然等、様々な知識を組み合わせることで解決していきます。数学もまた、文字や図形等の知識の組み合わせにより解決する事ができます。このように、数学の問題を解決する事と実社会で起こる問題を解決する事につながります。」

君崎友哉さん (盛岡大学文学部英語文化学科 3 年)

「英語という教科は、世界に向けて自らの主張を発信する上で必要なツールであると考えています。一般的に日本人は勤勉であると評価を受け一方、控え目で大人しく主張が苦手であるとも言われています。それゆえに不利益を被ることが度々ありました。世界に向けて主張するためには、正しい知識を身に付け、世界共通言語としての英語ができるようになればよいのではないかと考えています。英語を学び、世界へ主張できる日本人を目指して共に精進していきましょう。」

実習生の皆さん、忙しいところありがとうございました。